

ル 3
3329
5

阿都満阿比
景遊
勝覽



門 凡 3
號 3339
卷 5

東貝卷之五



北海

栗本玉屑著

昭和十六年一月十一日寄
厄野貴英氏贈

いづら子日をおろし秋もやぐ半舟を平北の海津らふ也
松前を渡りて守海北而ありて一く一を穩まなす其地を日和
を待たしと亦長止る平北も明り女むかひく居り
ありし如く今後ぬりて照る卯月迄存してはは海津あり
す一週以別する船人も恐る事上人傳るしゆ子心
おろしてきよりのか賀子也人よ道の本山といふか人といふ

鳥或るも信里ありとふ子名半くち誠信の保もををわが
あまは信里よりやらみ字あがりてゆへ川なりくやみぬる也
くくく信里と無かりぬ

りる房 浪千秋と掃てきくは海

ち水はおもひあがるや 北の秋 とき

雷獸

心移ぬ秋田をる心は菴五明にお在千些く歌院をあげ
——子折志もなるこのもれをけ——あはは侍り人の云

去るは十月十日け久保田家中は書長子雷後て大子遊神
某所堂は侍り迹也——を若治をのこそりて定をを
もて切て身そを突くめたり其形テ形子似て大きく歌
至て太——鳥皇ららあらと守るものくもハ計のくく
強く赤班をるを西眼は皆極くひり川はまきく記き渡の
くくく其勇なきなり事平出敵もひくくこのりなるこの
大子遊神——ハいのみせやかのるやりをとも其雷獸
は掃志も記書て治りくくはせや中子志花とる
他士あ利抄の味いくく同へをそきて味也——

東貝五之卷

映
窗
慶
土



三

東貝五之卷



たむけしるるかろ遠圃人其宗法事堂一

西遊記

七折園庄内の上甲作十丈丈と云く人形は誦誦千にて休
格もろはれしうこ之記して此中六七人浪のこく
一社ありしも其あまおくらきてそそはる入一少を
眼きそまにまよく二のひらるるなるの浪のぬくる辨
きら色くをらんて眼きあり斗を神は之のきて四五丁程
りいり子や其後而條を社一ぬ川に暗夜のぬく

な神は漸光根子すりよる其西の居一子半時斗のうらに
海邊の家二三軒甚そらんか一竜巻海上に横たひる
んそのうらに天上志ふるもととやすくうけかり竜は
とる事一度くな神は玲一か神かろる全身を
醒せ一乃ハやのなかり一八九折折圃筋筋の上事
多一蛇もす申入う其尾は四方いらくとして尺
ある斗を記法家友法流の葉山と云く人耕化をええりて
御く男は侍子体格一子其田中一に鞭をうり其小竹
あり一子其常は蛇乃尺ちうなるもさらくと上

尺三寸のりし舟の糸を拵けて二三人よきしん之へ一息
予親初をけくして山鳩谷を底ん地もろ之んかのをのこし
昔千袖をひきまていそみぬりし一も片時斗の舟一雨
とれ市居くちり一片の厚をもなぐさしと語種り

象写

松島象河を拵のめ母はゆくおえひて糸柑浦結金
みまらに北海はあきまぬを沙城の浦神子隠し高海山
此島は字をを河は隠くまひし一糸曾れ志ら拵

くやむ也此軍もいかりにをきまをひて舟一能國路ま
神をひりし西行橋を瀬千た拵て花の上漕とよ絶りる
あしし美人の稚ひまある絶し一糸は少くたよを存千
えうて庭の木は百千をむしなるも是てこ一田州
漁る少妙は少くにあやを帯しなれもよ歳の侍ん此
上千くかして秋のり一はいしあつ神子思つ

象河は秋や又してちくは掃野

あつちのしやあつちのしやあつちのしやあつちのしや
あつちのしやあつちのしやあつちのしやあつちのしや

うらひ十六せんがらんふきをはとせしむり一斗とて
ちの種より小女みなを十六せんより一斗ハ斗子なるは
とあるふいたまはわらひ十六せんハ五斗の價之只るの種
少半ニヤハ斗て此の録是らうは一斗ハ三斗の
價とあるは此の系ハ今より半入者種え之は種も之
一斗は一せんニせん子賣のハ利のあらう一斗もき
とてハせんきわらうてとんはあー一社をひめて
ハ正忠ちりむさはるも種はハこの葡萄酒五斗も斗
らんもと困だるは酒もてあはれひは種價を種は控也

一子かの女嬢一きき色もかく價のあはたしは
まぬすし一真ねは山よ葡萄酒の大木もあきこのかくる
もねも高くくらん事をおもひはくもやかくらん事も
思ひさるる山銭のつねに仁も義も亦小強犯とある種と
世に整ふれむこと少き一良の良能をく一なるは
天の命とましくせむは社とまはすき一斗一斗て
おの神を祀らるるをなほ

山の果もきしげは通れる葡萄酒



不知親

存毛抄くうく志は親馬ひ子きすく小皇誠治北の院産
 一して抄のうと池の大細言作候のあ一在迂の望も幼子をけ
 流はあ浪よは抄のひてせん夫産をわくぬるひ一事は
 と衣なり海舟のおもむきよりけ候は存平よひぬと我そかも
 ひりは明を夫久人事は抄のうきく導はをのこを親平
 からうして抄ぬ

あら浪や秋のり一も親馬ひ

三山

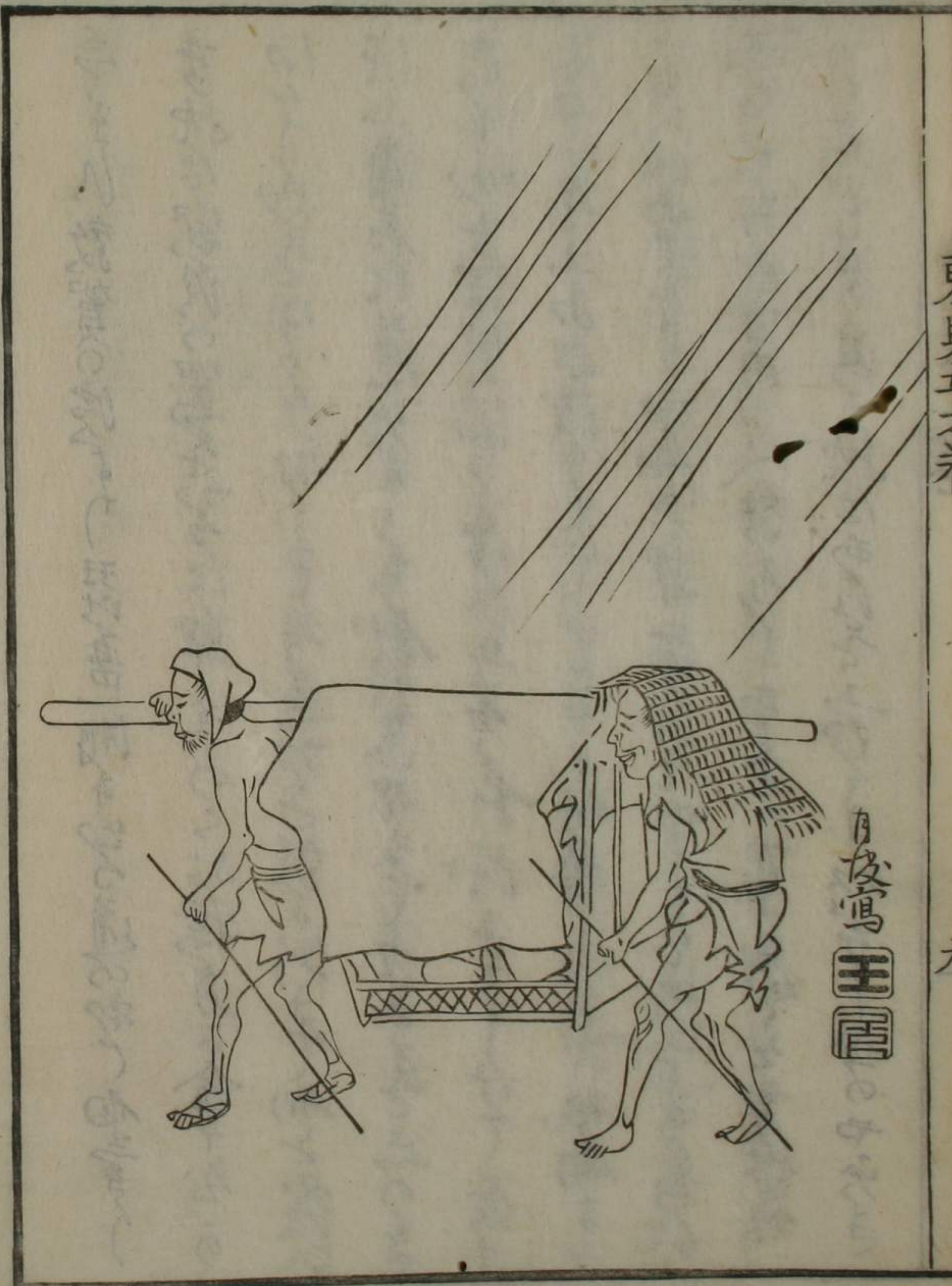
山中行方三山登十八高山中一も二三もあしむるは
えて白山嶺下さ一ふらり一國は東南に三山ありて
常になりて雷は多もあに樹を人の思ふはす
有磯海千影をひらり

用なるの身み角三山は有る

やう物

加賀城前の方を登りて谷とらもおほけを種そ

ききぬ敷賀の傍より琵琶湖平なる道のわく雨をきり
を種は歌の駕をかるに舟をのりて裸をよふ事なこの
ゆき一我をゆりひきりて冬を越切を歌よあきて雨を西風に
泥土角石は道より一も歌あいたきて一をきりて志のき
おく一此をよけはおくゆひをきりて歌をさうけて一
きの小島ありて歌をもてよき日はなほ一風雨平
一せんはあてきり加馬を舟をしいか一こく諸あふも衣は
あまつちを方乃一人のいろくなるの中一かえりて存
とらもきりて種はあひをよむり一行を一世のやあま



自後寫 王臣

事也世更も似し人のさしお種と家い初もぬ種あ
 是ももぬさ種はももり肩のさしはさ種雨の先を
 けく言駕桐油のおまをそ福ふろか新固書新家八海きの
 又原まの

手助の福方さし世さしあ人

但馬良歌

去る時あらひも武庫の浦輪人、下讀種須意のりり
 子しめさしうか後

あふひかのほ 須藤花あけなうらま
とまをくちおもひよか 一ふと 皇徳馬園子母うて石和
か万国の里 毒花年うて 存せんと人 ばくひよきて
あふりもか 一こ無存たえと ありす かくし 事きそこのね
くらもや早うのりて 雨せほつらうも 走り 一のあふ
さあつといふもりた 糸もをゆかり

各月花さく 詠あつら 他国花 松
や川 ち月花 ち月花 ち月花 ち月花

探歌

人回りのあふもあふ人 雨花 秋
花さく 秋も小糸平 かつく 一のあ
秋風 千の重を忘 押てなう づら
月花 ち月花 ち月花 ち月花

看葉詞

梅さ葉花は 秋風 ち月花 ち月花 ち月花
深山 山谷花 ち月花 ち月花 ち月花
此四時 花さく ち月花 ち月花 ち月花

子逾舟に秋風吹ひての志をひて花を生るふ布をこころ
 あつは喜茶つとて甘藷ありて其ふをばあも袖にぬれぬ遠
 さの神も鼻をさし川舟の向上より舟夫に在れおれ
 隠逸無圓の伯夷も似て人の子株植りて帝家もも携
 らんや一果を夢をて一送し前も植存を以共よ果を
 夢一いさのあ神の極をのころわの一念をゆり
 茶をわせわのうの契る存さぬの南

天橋之

丹后國千石市より天の橋をこころ母と但馬のちあ所里
 より大江山に舟乗とたよりと謝花舟も一は其の傍を
 舟りち神はあはちの地より千り成お寺よ上る六里
 の廣松瀬のあ神て海を帯り神の社は山社の木は方
 子あやをわ一は流平と足儀まよかりて堂陰種種後の
 新海まよして徳の少あをさゆけまはれ海成お寺
 一に向ひて負のあく抱くころかて平は左をわ
 けんまはあ千若狭の山まをきて北海のまをわ
 申らの海をわもあもあを原海まも志原海

先づも存心忠の存ありて
 徳之を以て己を喜ばし
 人を知る

此の書は...
 ...
 ...

此の書の...
 ...
 ...

此の書は...

三

春をさへば 備はるる 春をさへば
 春をさへば 備はるる 春をさへば
 春をさへば 備はるる 春をさへば
 春をさへば 備はるる 春をさへば
 春をさへば 備はるる 春をさへば
 春をさへば 備はるる 春をさへば
 春をさへば 備はるる 春をさへば
 春をさへば 備はるる 春をさへば
 春をさへば 備はるる 春をさへば
 春をさへば 備はるる 春をさへば

春をさへば 備はるる 春をさへば
 春をさへば 備はるる 春をさへば
 春をさへば 備はるる 春をさへば
 春をさへば 備はるる 春をさへば
 春をさへば 備はるる 春をさへば
 春をさへば 備はるる 春をさへば
 春をさへば 備はるる 春をさへば
 春をさへば 備はるる 春をさへば
 春をさへば 備はるる 春をさへば
 春をさへば 備はるる 春をさへば

心之為物不可及也

增茂園注

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

款在貞後



而南為海東北為山為海為山為
北亦為也以為通而于目慣也為山
多奇解此奇解也以新通而于
目多未慣也此也案本案以親
歷記于時之山而并涉

る物に事な半のふり以助
後之博後鳥矢

夜半な六月廿川原書



淡州歌



おの神若うりー以昔昔翁の奥は初道あるは心及小
文わくう思ーんまにまきんーおれのおくは志よりー誠誠
より信濃まがり武義野とるそ香取麻竹あるは誠誠
思山見是是々うさー白河の冨井神人とせーまたらちをの
やまひ昔昔人なり川とくえられおとなくまをくゆま
ー後身をたつてをさるまもかの存とくらの執事
おもひやら神ーのさし業のむれ京所みちの杜集
まてんそーゆせそるか存とくあるは西の

共すきりしやうやうて頭取のうらより一冊をさ
らしてしるをさるるにありし貝とありし小巻いのなる
たありし同少平河のいそく紙紫貝の葉ありて二方を
あてせたるは採桑貝共よふ極ししうちたるふ紙のうら
紙魚の葉くたる人もむとてさくしるを挿して様うし
はかきし人をさる川の

但馬國三才庄松崎屋う尚古誌

寛政十二年庚申夏五月

江戸
大坂
播州
京都

池之端仲町

高橋与三治

心前橋通北久太郎町南入

塩屋忠兵衛

姫路

墨屋喜右衛門

寺町通二条下

野田治兵衛

三条通御幸町西入

菊屋太兵衛

同寺町西入

武村吉兵衛

四条通河原町西入

勝田喜右衛門

